

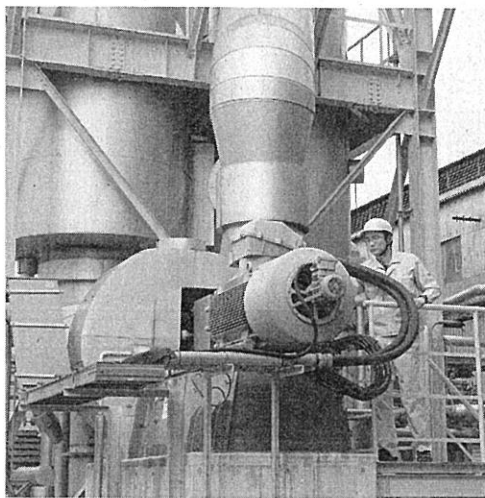
東洋化学(三重県川越町、河村義浩社長、059・365・4101)は、和洋菓子の材料に用いる水あめ、ブドウ糖などを製造加工する。製造過程のうち、原料のどんぶんを加熱し、糖の濃度を調節しながら濃縮して作る中間液の製造で、同社は顕著な省エネを実現した。電気式の自己蒸気機械圧縮型蒸発装置(MVR型蒸発装置)を導入し、ガス使用量の約33%削減に成功したのだ。

中間液は顧客に納める前段階にあたる状態で、糖に分解し、加熱して水分を飛ばしながら濃縮する。顧客の要望に合わせて糖濃度の調整などを行い、出荷する。同社では常に10種類ほどの製造している。

東洋化学



MVR型蒸発装置



ガス使用量 3割超削減

縮する。以前まで、この過程では燃料にガスを使って蒸気を作り、加熱していた。製造設備が導入から

の過程では燃料にガスを使って蒸気を作り、加熱していた。製造設備が導入から

縮する。以前まで、この過程では燃料にガスを使って蒸気を作り、加熱していた。製造設備が導入から

【事業所概要】▽所在地 三重県三重郡川越町高松820、059・365・4101
▽主要生産品目 水あめ、ブドウ糖など
▽年間エネルギー消費量 1249キロボルトワット
▽年間CO₂排出量 2416ト

ガス使用量 3割超削減
縮する。以前まで、この過程では燃料にガスを使って蒸気を作り、加熱していた。製造設備が導入から